

## 令和7年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立湊江小学校 校長 白石 芳江

## 1 学校教育目標

- ① よく考え進んで実行する子
- ② なかよく助け合う子
- ③ 心も体もきたえる子

## 2 現状の学校図書館の課題

- ①読書に親しむ児童は増えたが、調べ学習で学校図書館が十分に活用されていない。
- ②本に親しむ児童は多いが、読みの深まりや広がりにかける。

## 3 今年度の学校図書館の重点目標

- ①学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ力を身に付けさせる。
- ②読書の楽しさや喜びを味わわせ、意欲的に本を読もうとする態度を育てる。
- ③課題解決にあたって、必要な情報を選択し、効果的に活用する力を育てる。

## 4 今年度の重点取組

- ①児童が多様なジャンルの図書に触れられるよう、学校図書館支援員との連携を充実させる。
- ②児童が読書の楽しさを感じられるような活動や環境整備を行っていく。
- ③問題解決のための調べ学習で、学校図書館にある様々な資料を活用させるようにする。

## 5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①じどう車くらべ ①おなはしききたいな ①としょかんへいこう ①としょかんとなかよし ①むかしばなしをよもう ②本でしらべてしょうかいしよう ②生きものクイズをつくろう ②おもしろいもの見つけたよ ②おもちゃのせつめい書を書こう ③図書館たんていだん ③本で知ったことをクイズにしよう ③おすすめの一冊をきめよう ④調べてわかったことを発表しよう ④読書発表会をしよう ④分類をもとに本を見つけよう ④漢字辞典の使い方 ⑤図書館を使いこなそう ⑤新聞を読もう ⑤好きな詩をしょうかいしよう ⑥知ってほしい、この名言 ⑥『鳥獣戯画』を読む ⑥私と本
社会	④水はどこから ④ごみのゆくえ ⑤情報社会に生きるわたしたち ⑥区議会のはたらき
算数	②表とグラフ ②水とかさのたんい ⑥データを使って生活を見なおそう
理科	③こん虫のかんさつ ④月や星の見え方 ⑤台風と天気の変化
図工	①おはなしだいすき ②ことばのかたち ③ことばから思いうかべて ④言葉から形・色 ⑤言葉から思いを広げて ⑥言葉から想像を広げて
保健体育	⑥病気の予防
家庭科	⑤物を生かして住みやすく ⑥夏をすずしく、さわやかに

実践の評価

## 5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

- ・低学年では学校図書館の使い方や、図書分類に関することなどを学校図書館支援員と担任が協力して授業で扱ったことで、児童が学校図書館についての理解を深めることができた。
- ・各教科で調べ学習を行う際は、タブレットと学校図書館の資料を併用しながら活用し、調べ学習を行うことができた。社会、理科、生活、総合など、各学年の学習内容に関連する図書資料を、各学年の廊下の図書スペースに配置したことで、児童がいつでも調べ学習に活用できるようにした。
- ・国語の読む学習では、関連図書を貸し出し、学年の廊下などに配置した。そのことで、児童が学習に関連する図書をいつでも読めるようにした。

## 6 図書館運営計画

### （１）日常的な取り組み

- ① 読書時間の確保（毎週水曜日の朝読書）      ② 読む本は学校図書館から借りる
- ③ 読書通帳による読書記録と目標の設定（低学年 80 冊・中学年 50 冊・高学年 30 冊）

### （２）主な行事の取り組み

- ①読書旬間年 1 回      ②地域図書館によるお話し会

### （３）図書委員会などの取り組み

- ① 休み時間の本の貸し出し（週 2 回）      ② おすすめ本紹介（毎月の掲示）
- ③ 1～4 年生への読み聞かせ（年 2 回）

### （４）環境整備の取り組み

- ① 請求記号を 3 桁に統一し、分類の理解を深める。
- ② 調べ学習に利用できる 9 類以外の図書の充実を図る。

### （５）司書・外部との連携

- ① 展示や掲示を工夫し、学校図書館の美化を心がける。
- ② 授業担当者との共通理解を図る機会を確保し、資料の準備をより充実させる。

## 実践の評価

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	学校図書館支援員と作業計画会議を行い、授業に必要な教材や資料の依頼や、相談、情報交換等を行う。	月 1 回の作業計画会議	毎月月末に作業計画会議を行い、その月の反省や来月における計画を話し合うことができた。
②	読書の楽しさや喜びを味わわせ、意欲的に本を読もうとする態度を育てる。	①読書冊数の目標：低学年 80 冊、中学年 50 冊、高学年 30 冊 ②児童の意識調査：「本を読むことが好き」の肯定的回答 8 割以上	①長期欠席など理由がある児童以外は 100% の児童が達成することができた。 ②2 月の調査では、9 割以上の児童が肯定的な回答をした。
③	課題解決にあたって、必要な情報を選択し、効果的に活用する力を育てる。	ICT と図書を併用した調べ学習を実施した回数：各学級年 3 回	全ての学級が 3 回以上実施できた。

## 8 学校図書館全体に関する自己評価

- ・児童一人あたりの年間平均貸出冊数が昨年度の 35.5 冊から 45.2 冊に増えた。1 回に借りられる本を 2 冊から 3 冊に増やしたことや、読書通帳を活用し学年ごとに目標設定していること、学校図書館支援員と連携し、図書館の本を整理したり掲示物等を作成したりし、本が手に取りやすくなった結果だと思われる。学級文庫の充実や教科の学習に合わせた学年ごとごとの貸し出しなども行ったため、学校図書館で借りた本だけではなく、様々な本を読む児童が増えている。今後も教室や学年の廊下などの身近な場所に本があり、手に取れるような環境を整備していきたい。
- ・学校図書館ボランティアによる読み聞かせを、全学年で実施することができた。それに合わせて、図書委員による年 2 回の読み聞かせ、支援員による読み聞かせ、本の紹介などをしたことで、読書に親しむ児童は増えている。